

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）	教育 0-1
1. 医学部	教育 1-1
2. 歯学部	教育 2-1
3. 医歯学総合研究科	教育 3-1
4. 保健衛生学研究科	教育 4-1

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	教育活動の状況	教育成果の状況	質の向上度
医学部	期待される水準を上回る	期待される水準にある	改善、向上している
歯学部	期待される水準を上回る	期待される水準を上回る	質を維持している
医歯学総合研究科	期待される水準を上回る	期待される水準にある	改善、向上している
保健衛生学研究科	期待される水準にある	期待される水準にある	改善、向上している

注目すべき質の向上

医歯学総合研究科

- 平成 23 年度に「大学院学生研究奨励賞」を創設し、学生に海外研修の機会を提供するとともに、平成 24 年度から文部科学省世界展開力強化事業を活用した取組等を行っており、海外派遣者数は平成 23 年度の 2 名から平成 27 年度の 95 名へ増加している。
- 留学生の受入体制、支援体制を整備しており、留学生数について、平成 21 年度の 137 名から平成 27 年度の 201 名へ増加している。

医学部

I	教育の水準	教育 1-2
II	質の向上度	教育 1-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 医学科では、医療機関等に所属する医療従事者に臨床教授等の称号を付与し、臨床教育の指導において協力を得ている。また、保健衛生学科では、附属病院の看護部職員のうち、基準を満たす者に看護実践教授等の称号を付与し、臨床教育の指導において協力を得ているなど、専任教員以外にも多用な人材が教育へ参画している。
- 平成 25 年度に医学教育分野別評価のトライアルを受審するなど、外部評価を活用した教育の質保証に取り組んでいる。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 平成 23 年度から医歯学融合教育カリキュラムを導入し、学部生とともに医療従事者として他職種と連携・協調し、包括的医療を提供するための基盤となる知識や技能等を学ぶ教育を実施している。
- 平成 25 年度から英語語学力だけでなく、医学医療分野におけるグローバルリーダーに必要な様々なソフトスキルを含めた資質獲得を目指すため、全学共通自由科目として「Health Science Leadership Program (HSLP)」を設置し、教育の国際化に取り組んでいる。また、HSLP ではアクティブラーニングを用いた学習機会と、ルーブリックを用いた効果的省察及びフィードバックを履修生に提供している。
- 平成 23 年度以降、タイ、台湾、韓国、オーストラリア等と協定を締結するなど、学生の派遣先を増やしており、第2期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）における海外派遣者数は平成 22 年度の 29 名から平成 27 年度の 66 名へ増加している。

以上の状況等及び医学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間における国家試験合格率（既卒を含む）は医師が95.0%、看護師が98.1%、保健師が97.5%、臨床検査技師が92.4%となっており、すべての年度で全国平均合格率を上回っている。
- 平成26年度に実施した平成25年度卒業生へのアンケート調査では、教育全般に対する満足度についての肯定的評価は97.6%となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間において、医学科では卒業生の90%は臨床研修医として就職しており、保健衛生学科では、第2期中期目標期間の卒業生の23.4%は大学院に進学し、進学者を除いた94%は看護師、保健師及び臨床検査技師等として就職している。
- 平成26年度に就職先企業等を対象に実施した全学アンケート調査の結果では、幅広い教養について就職先企業等の99%が肯定的な回答（5段階中4以上）となっており、自己問題提起・自己問題解決能力は92%、国際感覚は81%が5段階中4以上の評価をしている。

以上の状況等及び医学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 23 年度から医歯学融合教育カリキュラムを導入し、医療人として他職種と連携・協調して包括的医療を提供するための基盤となる知識や技能等を学ぶ教育を実施している。
- 平成 25 年度から HSLP を全学共通自由科目として設置し、アクティブラーニングの手法を用いて、医学及び関連する社会科学系知識の応用力の涵養、批判的思考力等をはじめとした各種スキルの習得を推進し、医療の国際標準化と国際協調に対応できる人材の育成に取り組んでいる。
- 学生の海外派遣者数は、平成 21 年度の 26 名から平成 27 年度の 66 名へ増加している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第 2 期中期目標期間において国家試験合格率（既卒を含む）は医師が 95.0%、看護師が 98.1%、保健師が 97.5%、臨床検査技師が 92.4%となっている。
- 平成 26 年度に就職先企業等を対象に実施した全学アンケート調査の結果では、幅広い教養について就職先企業等の 99%が肯定的な回答（5 段階中 4 以上）となっており、自己問題提起・自己問題解決能力は 92%、国際感覚は 81%が 5 段階中 4 以上の評価をしている。
- 文部科学省「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」において開催した英語プレゼンテーション大会で、HLSP 受講者が平成 26 年度は準優勝、平成 27 年度は優勝している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

歯学部

I 教育の水準 教育 2-2

II 質の向上度 教育 2-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 27 年度における歯学科の教員一人当たりの学生数は 2.2 名となっている。
- 平成 22 年度に歯学系スキルラボラトリーを拡張し、教育シミュレーション機器 5 台を設置して臨床技能向上のために活用するなど、学習環境を整備している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 平成 23 年度から医歯学融合教育課程を導入しており、多職種間で連携し、包括的医療を提供する医療人の資質を養うために、医師と歯科医師に必要な知識を学ぶ医歯学基盤教育（グローバル・コミュニケーション、生命倫理及び臨床統計）を実施しており、頭頸部について学ぶ頭頸部基礎ブロック、頭頸部臨床ブロック及び高齢者の医療を学ぶ老年医学ブロックを、医学科と歯学科の学生が共同で学んでいる。
- 平成 24 年度から、全学科の最終学年に在籍する学生が、多学科混成グループによるケーススタディを通じて患者中心の専門職連携を学ぶ包括医療統合教育を実施しており、平成 26 年度からは私立大学の学生も参加している。
- 歯学科では、海外研修奨励制度や文部科学省の世界展開力強化事業等により、チュラロンコーン大学（タイ）、インドネシア大学（インドネシア）、ホーチミン医科薬科大学（ベトナム）等へ学生を派遣し、口腔保健学科では、台北医学大学（台湾）での海外研修等を行っており、両学科の海外派遣者数は平成 22 年度の 6 名から平成 27 年度の 61 名へ増加している。

以上の状況等及び歯学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 歯学科では、5年次に歯科共用試験（CBT及びOSCE）を受験し、毎年度ほぼ全員が合格基準を満たし、臨床実習に進んでいる。歯科共用試験の平均正答率は、平成22年度から平成26年度の平均77.6%から、医歯学融合教育を含む新教育課程を履修した学生が初めてCBTを受験した平成27年度の82.1%へ上昇している。また、本試験合格率は平成26年度の83.1%から平成27年度の95.5%へ上昇している。
- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）における歯科医師国家試験では、新卒者の各年度の合格率は平成22年度の91.5%から平成27年度の94.5%へ上昇している。また、新卒者と既卒者を合わせた合格率は84.8%となっており、いずれもすべての年度において全国平均合格率を上回っている。
- 第2期中期目標期間における口腔保健学科の国家試験の新卒者と既卒者を合わせた合格率は、歯科衛生士は98.6%、社会福祉士は55.3%、歯科技工士は100%で、平成27年度の歯科衛生士国家試験を除き、すべての年度において全国平均合格率を上回っている。
- 平成26年度に実施した平成25年度卒業生へのアンケート調査では、専門分野に関する知識や技能について、91.3%が在学中に「身に付いた」又は「やや身に付いた」と回答し、91.3%が現在「役に立っている」又は「やや役に立っている」と回答しており、また、教育全般の満足度について91.3%が肯定的に回答している。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間において、歯学科の卒業生は87%が臨床研修医となり、口腔保健学科の卒業生は18.7%が大学院等へ進学し、進学者を除く83.6%が歯科衛生士や歯科技工士等の資格を活かし、大学病院、総合病院及び歯科診療所等に就職している。
- 平成26年度に実施した就職先企業等への全学アンケート調査では、幅広い教養は99%、自己問題提起・自己問題解決能力は92%、国際感覚は81%が5段階中4以上の肯定的な回答となっている。

以上の状況等及び歯学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 23 年度から医歯学融合教育教育課程を導入し、多職種との連携により、包括的医療を提供できる医療人の資質を養う医歯学基盤教育を実施しており、頭頸部や高齢者の医療を医学科と歯学科の学生が共同で学んでいる。また、平成 24 年度から実施している包括医療統合教育では、最終学年の学生が多学科混成の少人数グループで問題解決に取り組んでいる。
- 文部科学省大学の世界展開力強化事業に採択された「東南アジア医療・歯科医療ネットワークの構築を目指した大学間交流プログラム」によりチュラロンコーン大学、インドネシア大学及びホーチミン医科薬科大学とコンソーシアムを形成し、学生の派遣・受入を行うなどの取組により、海外派遣者数は平成 21 年度の 4 名から平成 27 年度の 61 名となっている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第 2 期中期目標期間の歯科医師国家試験において、新卒者の合格率は平成 22 年度の 91.5%から平成 27 年度の 94.5%となっており、また、新卒者と既卒者を合わせた合格率は 84.8%となっている。
- 平成 27 年度の全国共用試験（CBT）の平均正答率は 82.1%となっており、平成 22 年度から平成 26 年度の平均正答率と比較して 4.5 ポイント上昇している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

医歯学総合研究科

I	教育の水準	教育 3-2
II	質の向上度	教育 3-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 平成 24 年度から、理化学研究所、国立精神・神経医療研究センター等との連携大学院を設置しており、学外の研究者が研究指導、講義及び学位審査に加わるなど、研究機関等と連携した教育に取り組んでいる。
- 平成 26 年度から博士課程に「疾患予防科学コース・領域」を設置しており、企業の研究者等が講義を担当することにより、学生が、専門分野の研究に加え、広い視野や研究開発力を獲得し、将来のリーダーとしての素養を育むための体制を構築している。
- 「疾患予防グローバルリーダー養成プログラム」、「歯科医学グローバルリーダー養成プログラム」、「ミャンマー連邦共和国に対する歯学の指導者養成事業」等の実施により、第2期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）の留学生数は、平成 22 年度の 163 名から平成 27 年度の 201 名へ増加している。
- 高い研究成果をあげ、将来研究者としての活躍が期待できる学生を毎年 3 名から 10 名選出し、海外研修の機会を提供する「大学院学生研究奨励賞」を平成 23 年度に創設しており、海外派遣者数は平成 23 年度の 2 名から平成 27 年度の 95 名へ増加している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 修士課程では平成 24 年度の改組により、医歯学と生命理工学の有機的連携を図っており、理工学分野の科目や医療管理政策学（MMA）分野の科目を履修可能としている。また、博士課程では医療分野における理学及び工学の先端融合的学問領域に対応したカリキュラムを実施するとともに、学際生命科学東京コンソーシアムに基づき、お茶の水女子大学、北里大学及び学習院大学と連携して開設している「疾患予防科学コース・領域」では学内外の組織と連携した学際的なカリキュラムを実施している。
- 研究に実際に携わる学生に研究倫理講習会の受講を義務付けているほか、e-learning による「CITI JAPAN program」受講による研究倫理理解を義務付けるなど、研究倫理と安全管理に関する教育を充実させている。

以上の状況等及び医歯学総合研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間における学位授与率は、修士課程（MMA コースを除く）が 92.7%、修士課程の MMA コースが 90.7%、博士課程が 59.8%となっている。また、学位論文の下地となる論文には、インパクトファクター（IF）10以上の学術誌に掲載された論文も含まれている。
- 第2期中期目標期間における学生の国際学会での発表件数は平均 248.3 件となっている。
- 日本学術振興会の特別研究員に採用された大学院生総数は、第1期中期目標期間（平成16年度から平成21年度）の78名から第2期中期目標期間は98名となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間において、修士課程の修了生は 17.5%が博士課程等に進学している。また、進学者を除いた修了生のうち、就職した者の割合は 85.9%となっている。また、博士課程の修了生のうち、就職した者の割合は 53.2%となっており、医師・歯科医師、看護師・保健師等に就職している。
- 平成26年度に就職先企業等を対象に実施した全学アンケート調査の結果では、幅広い教養について就職先企業等の 99%が肯定的な回答（5段階中4以上）となっており、自己問題提起・自己問題解決能力は 92%、国際感覚は 81%が5段階中4以上の評価をしている。

以上の状況等及び医歯学総合研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 23 年度に「大学院学生研究奨励賞」を創設し、学生に海外研修の機会を提供するとともに、平成 24 年度から文部科学省世界展開力強化事業を活用した取組等を行っており、海外派遣者数は平成 23 年度の 2 名から平成 27 年度の 95 名へ増加している。
- 留学生の受入体制、支援体制を整備しており、留学生数は平成 21 年度の 137 名から平成 27 年度の 201 名へ増加している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 進学者を除いた修了生のうち、就職した者の割合については修士課程は平成 21 年度の 69.4%から平成 27 年度の 87.4%、博士課程は平成 21 年度の 28.3%から平成 27 年度の 60.9%へそれぞれ上昇している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

2. 注目すべき質の向上

- 平成 23 年度に「大学院学生研究奨励賞」を創設し、学生に海外研修の機会を提供するとともに、平成 24 年度から文部科学省世界展開力強化事業を活用した取組等を行っており、海外派遣者数は平成 23 年度の 2 名から平成 27 年度の 95 名へ増加している。
- 留学生の受入体制、支援体制を整備しており、留学生数について、平成 21 年度の 137 名から平成 27 年度の 201 名へ増加している。

保健衛生学研究科

I	教育の水準	教育 4-2
II	質の向上度	教育 4-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 26 年度に総合保健看護学専攻を 5 年一貫制博士課程の看護先進科学専攻へ改組し、グローバルな場で活躍できる看護学の研究者・教育者・高度実践者の育成に取り組んでいる。看護先進科学専攻においては、研究者・教育者養成コース、高度実践者養成 CNS-D コース、若手研究者養成 Nurse-Investigator 養成 Pathway コースの 3 コースを設けている。
- 高知県立大学、兵庫県立大学、千葉大学、日本赤十字看護大学との共同教育課程として、平成 26 年度に博士課程教育リーディングプログラム「災害看護グローバルリーダー養成プログラム」において共同災害看護学専攻を設置し、災害看護に関する課題に的確に対応する学際的かつ国際的指導力を備えたグローバルリーダーの育成に取り組んでいる。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 23 年度に「大学院学生研究奨励賞」を創設し、高い研究成果をあげて将来研究者としての活躍が期待できる学生に海外研修の機会を提供しているほか、短期派遣プログラム等を実施しており、海外派遣者数は平成 23 年度の 1 名から平成 27 年度の 20 名となっている。
- 看護先進科学専攻では、長期的視野に立った研究計画立案を行い、2 年次終了時には中間評価を実施し、研究の進捗状況の的確な把握に努めている。

以上の状況等及び保健衛生学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）において、学生を筆頭著者とする論文等は364件となっており、そのうち英語原著論文は76件となっている。
- 博士前期課程の学位の平均取得率は、平成22年度の80.5%から平成27年度の94.7%となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間において、博士前期課程の修了生の就職先は、看護師や医療技術者等となっており、博士後期課程への進学率は平均25%となっている。博士後期課程の修了生の就職先は、研究者又は教員が55.6%となっているほか、看護師や医療技術者等が38.9%となっている。

以上の状況等及び保健衛生学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 23 年度に「大学院学生研究奨励賞」を創設し、大学院生に海外研修の機会を提供しているほか、短期派遣プログラム等を実施しており、海外派遣者数は平成 23 年度の 1 名から平成 27 年度の 20 名へ増加している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 就職率について、平成 21 年度と平成 27 年度を比較すると、博士前期課程は 72.0%から 93.8%へ、博士後期課程は 30.8%から 58.8%へ、それぞれ上昇している。
- 第 2 期中期目標期間において、博士前期課程の修了生の就職先は、看護師や医療技術者等となっており、博士後期課程への進学率は平均 25%となっている。博士後期課程の修了生の就職先は、研究者又は教員が 55.6%となっているほか、看護師や医療技術者等が 38.9%となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。